

## 患者中心の医療とどこでも MY 病院

斎藤とし子 様

アイビー千葉（旧あけぼの千葉）代表

私は25年前に乳がん患い、乳がんの患者会「あけぼの会」に入会しました。5年後にあけぼの会千葉支部長を引き受けて以来、20年間がん患者のサポーターとして関わってきた者として、「どこでもマイ病院」構想に思うところを申し上げます。

かつて、医療情報は医療機関のものでした。そこであけぼの会では2001年から「私のカルテ」を会員に配布し、患者自身で治療や薬について記録する運動を続けてきました。治療の記録を正しく残しておくことで、自分の病気をよく理解して賢い患者になり、担当医とのコミュニケーションをよくしたり、自分自身で治療法を選択できるようになることが目的です。

しかし、当時は患者が自分のカルテをぜひ見たいと思っても、なかなか医師の協力を得られず、私たちは自分で治療の内容や薬などを「私のカルテ」に記録していきました。やがて医療機関の情報開示が少しずつ進んで行き、血液検査の記録や診療明細もいただけるようになり、今では患者が望めばいつでもカルテを全面開示していただけるまでになりました。乳ガンの手術から再発もなく25年経ちましたが、「私のカルテ」は乳がんの定期検診でも乳がん以外の病気でもとても役に立ちました。

今、千葉県では亀田総合病院を中心に「プラネット」という電子カルテシステムが始動しており、PHR（パーソナル・ヘルス・レコード）で患者情報を管理し、患者が自分のカルテをインターネットで見られます。これなら必要な医療情報が早く確実に見られ、患者が説明しなくてもいいので治療内容も正確に伝わります。残念ながら安房地方限定のネットワークなので、私が住んでいる地域ではうまく利用できませんが、千葉全域に広がるといいと思います。

今後、「どこでもマイ病院」が実現して、こういう医療情報を携帯から見られるようになれば、日本全国どこで具合が悪くなっても安心ですし、カルテの共有、医療連携、電子レセプト、電子処方箋が急速に進むでしょう。これにより、私たちがずっと望んできた患者中心の医療が実現していくのではないかと期待

しています。